

東葛モラルアップ通信 ・ 令和3年7月号



「チーム東葛飾 すべては子どもたちの未来のために！」

～東葛飾教育 新たなるスタート～

東葛飾教育事務所・モラルアップ推進会議



今月のテーマ「体罰」

今月は「体罰」について考えます。まず、文部科学省資料 令和元年度「体罰の実態把握について（令和2年12月22日）」より見ていきましょう。

①体罰の発生件数（一部抜粋）△は増 ▲は減

全国の件数（千葉県の件数）

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
平成30年度	175 (2)	222 (1)	158 (2)	20 (0)	575 (5)
令和元年度	182 (4)	194 (6)	149 (3)	22 (0)	547 (13)
増減	△7 (△2)	▲28 (△5)	▲9 (△1)	△2 (0)	▲28 (△8)

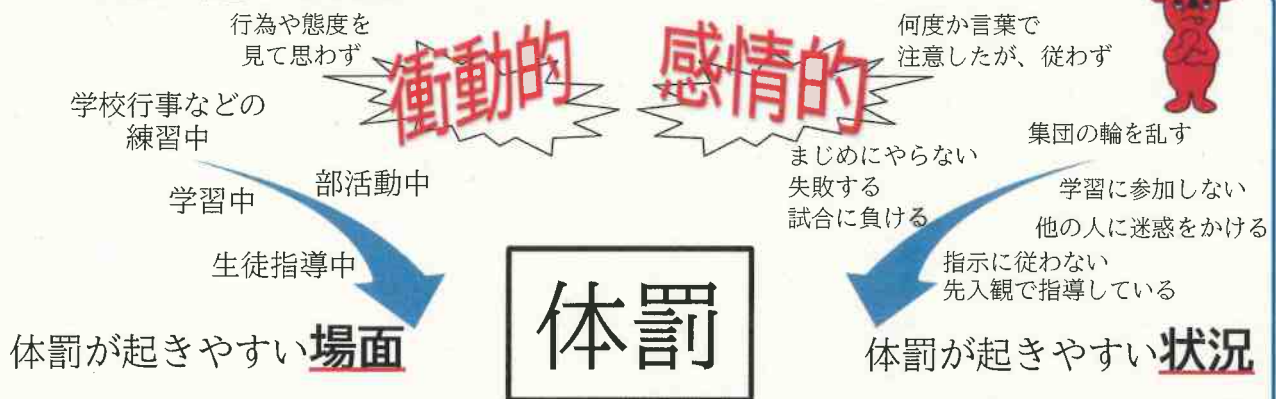
→体罰の態様としては、「素手で殴る・叩く48%」「蹴る・踏みつける（13%）」「投げる・突き飛ばす・転倒させる（9%）」「つねる・ひっかく（4%）」の順となっています。

②体罰時の状況（令和元年度）

全国の件数（千葉県の件数）

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
授業中	120	78	48	12	258(5)
放課後	10	16	12	1	39(0)
休み時間	23	27	12	3	65(1)
部活動	1	43	58	2	104(5)
学校行事	2	5	2	0	9(0)
ホームルーム	6	5	4	1	16(1)
その他	20	20	13	3	56(1)

☆体罰が起きる背景



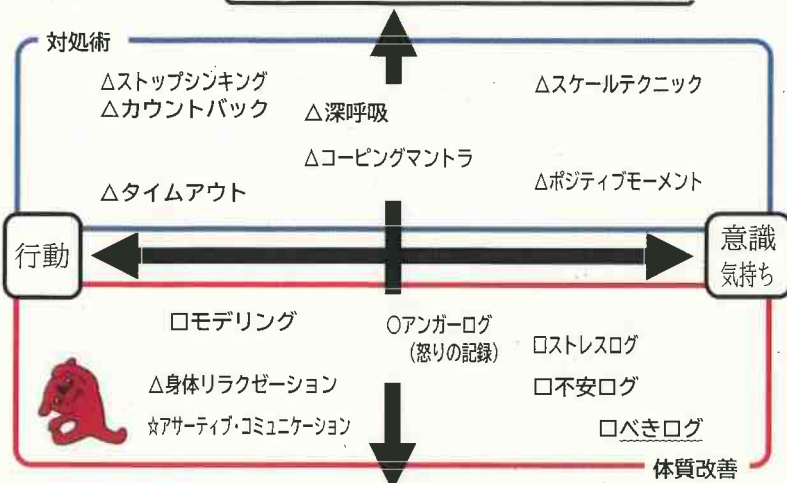
このように、児童・生徒の問題行動等を見て、衝動的・感情的になってしまい、手を出すことが多いようです。また、問題行動を起こした児童・生徒の指導を一部の教員に任せ、管理職や周りの職員、保護者がその状況を容認しているという学校の状況も背景として考えられます。

それでは、体罰によらない指導のために衝動的・感情的な気持ちを「アンガーマネジメント」によりコントロールしてみましょう。(→裏面へ)

体罰によらない指導のために

衝動的・感情的な気持ちを「コントロールする」～アンガーマネジメント～

短期的（怒りがこみあげたとき）



- (○) 自分の怒りを「客観視」
怒りをマネジメントするために、まずは自分自身の「怒り」を客観視してよく知ることから始める。
- (△) 自分の怒りを「コントロール」
自分の感じた「怒り」を一時的にコントロールできるようにする。
- (□) 「怒らない仕組み」をつくる
自分の考え方・価値観を絶対視せず、事象や場面を相手の立場に立って考えたり、怒りの要因について考えたりする。
- (☆) 本心が伝わるようにする
「怒り」の背景にある伝えたい本当の気持ちをきちんと理解してもらう。

やってみよう

長期的（日常的）

【スケールテクニック】

生活の中で、カチンときたとき、イラッとしたとき、腹が立ったときなど、その怒りの度合いを自分なりの温度計で表してみる。

【コーピングマントラ】

「大丈夫、何とかなる」「明日には忘れてる」等、自分を落ち着かせたり、怒り感情を緩和させたりする魔法の呪文を考えておく。自分に言い聞かせる。

【ポジティブモーメント】

別名ヒーローインタビュー。自分の成功体験(最高の瞬間)をイメージし、怒りの感情をリセットする。

【アンガーログ】

「怒り」を感じたときに、日時、出来事、感情、感情の強さ、行動、結果、異なる考え方等をノートに記録する。

【不安ログ】

不安を感じた場面や状況を「重大である」「重大でない」「コントロール可」「コントロール不可」の4つの箱に整理して客観的に見つけ、記録する。

【ストレスログ】

ストレスを感じた場面や状況を「重大かどうか」「コントロール可能か」の2つの視点(4つの箱)で客観的に見つけ、記録する。

【ストップシンキング】

頭を空っぽにして怒りを止める思考停止のテクニック。脳科学では、怒りを感じてから言葉に整理するまで必要な時間は2秒。怒りのピークは、長くて6秒。

【カウントバック】

「100、97、94、91・・・」と、100 から3ずつ引いていく逆算を頭の中で行い、反射的な言動をしないようにする。

【タイムアウト】

怒りをエスカレートする前に、一時的にその場から立ち去り、しばらく頭を冷やす。(戻る時間を決めておく。)

【モデリング】

理想のモデルやキャラクターになりきって演じてみることで、理想の性格を獲得する。

【アサーティブ・コミュニケーション】

相手に対して怒ったとしても、怒りの感情を言葉でそのまま相手にぶつけないことや、態度に出さないで伝える。

【ベキログ】

思ったこと、使ったことのある「ベキ」をできるだけ多く書き出すことで、自分のコア・ビリーフ(願望、欲求、価値観)を知ることができる。
☆自分のコア・ビリーフ(願望、欲求、価値観)を知ろう☆ 思ったこと・使ったことのある「ベキ」を書き出してみましょう

学校は _____ ベキ 教員は _____ ベキ

児童・生徒は _____ ベキ 保護者は _____ ベキ

～体罰を学校現場から出さないために～

過去の事例をもとに、体罰が起こった原因を考えてみましょう

<事例>

A教諭は、日頃の授業態度等に問題がある生徒に対して、指導した際、生徒が反抗的な態度をとったため、生徒の両肩、胸及び腹部等を左右拳で3～4回程度叩いた。さらに、教諭は生徒を教室へ連れ戻す際、生徒がふてくされた態度をとったことから、生徒の頭を両脇で締め付け、頭頂部を右拳で5～6回程度叩いた。

児童生徒に対する非違行為関係

(1) 体罰

ア 体罰により幼児、児童及び生徒(以下「児童生徒」という。)を死亡させ、又は児童生徒に重大な後遺症が残る傷害を負わせた職員は、**免職**とする。

イ 体罰により児童生徒に障害を負わせた職員は、**停職、減給又は戒告**とする。ただし、体罰を常習的に行っていた場合、又は体罰の態様が特に悪質な場合は、**免職又は停職**とする。

ウ 侮蔑的な言動により児童生徒に精神的苦痛を負わせた場合は、体罰の量定に準じて扱う。

参照：千葉県教育委員会 「信頼される質の高い教職員であり続けるために～教職員の服務に関するガイドライン～(21ページ参照)」